

泉谷ハ英勝寺ノ東北ノ谷也。○中路端ニ井アリ、泉井ト云、清水涌出ナリ、鎌倉十井ノ一ツナリ。
〔新編鎌倉志六〕星月夜井附虛空藏堂

星月夜井ハ極樂寺ノ切通ヘ上ル坂ノ下右ノ方ニアリ、里老云、昔ハ此井ノ中ニ畫モ、星ノ影見ユ
ル故ニ名ク、此邊ノ奴婢此井ヲ汲ニ來リ、誤テ菜刀ヲ井中ヘ落シタリ、爾シヨリ來タ星影不見ト、
略○中今按ズルニ、此谷ノ名ヲ星月夜ト云、アナガチ井ノ名ニハアラズ、千壽ノ謠モ、明モヤスラン星
月夜ト有古歌ニモ井ハ不詠、

十六井

〔類聚名物考地理三十五〕十六井

鎌倉に十六の井と云ふ有り、岩窟之内に小池を十六並べ穿て水を相かよはせり、その水清冷にして、めづらしきものなり、黃檗木庵の題詠を石に刻めり、後人の作れるなるべし、是は唐の封氏が聞見錄卷一に、道教老子廟の條に引る郭緣生が述征記云、老子廟中有九井、汲一井八井皆動、即其地也、と見えしも、よく似たることなり、

〔江戸名所圖會十三〕堀兼井 河越の南二里餘りを隔て、堀兼村にあり、淺間の宮の傍にある、故に是を淺間堀兼と號せり、此社前は古の鎌倉街道にして、上州信州への往還の行路なり、今の宮の持なり、淺間の祠の左に凹地有て、中に方六尺ばかりに石を以て井桁とし、半土中に埋れたるものあるを堀兼の井と稱せり、傍に往古川越秋元侯の家士岩田某建る所の碑あり、高さ五尺餘、其文左の如し、

此凹形之地所謂堀兼井之蹟也、恐久而遂失其處、因石井欄置拗中削碑而建其傍併以備後監、

里語堀而難得水、故云爾、兼通難未知、只從俗耳實永戊子年三月朔、○中略

土人傳へ云、往古日本武尊東征の時、武藏野水乏しく、諸軍渴に及びければ、尊民をして此所彼所に井を掘らしむるに、終に水を得ざれば、龍神に命じて流を引玄むるとなり、今の不^ミ年越川、或は入り事なりと/or>入間川の事なり。